

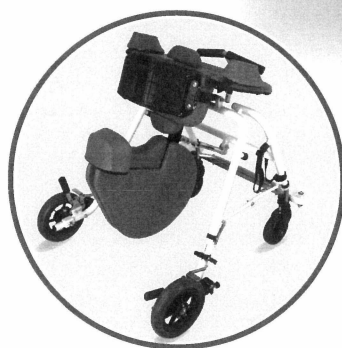
# 姿勢保持機能付歩行器 プロスター

## 取扱説明書

プロスターを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要ときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

### 歩行器の特長

- 自動車などへの積み込みやすさを考慮して、折りたたみ機構と支持部脱着機構を搭載
- 30度の角度をつけた前後脚フレームにより、高さ調節と同時に支持基底面も広がっていくトラスフレーム構造
- ティルト機構による支持部全体の角度設定と、また独立してサドルの角度調節が可能
- 体幹支持部の高さ調節、また体幹パッドの内幅、高さ、そして骨盤支持部(サドル)の高さなど、各部調節機構
- 上肢支持部は、前腕部、上腕部のそれぞれで角度調節が可能
- グリップ(オプション)は高さと前後の調節が可能
- 肘パッド、内転防止板、バンパーキャスター、直進固定装置、後輪逆転防止装置、後輪負荷装置などのオプション部品



※製品の仕様は改良のために予告なく変更することがあります。

## 目次

- 安全にお使いいただくために……P1・2
- 各部の名称……P3
- 製品構成……P3
- オプション……P3
- 使用前点検……P3
- 各部の取り扱い……P4～8
- 開き防止ベルトの取り扱い……P9
- 車への積み下ろし、抱え上げるときの注意……P10
- 歩行器の取り扱い……P10
- 折りたたみ方・開き方……P11・12
- お手入れ・メンテナンス……P13
- 前後足連結バー引っぱりバネについて……P13
- 仕様……P14
- 角度可変の範囲……P14

- ⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## ● 警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

- ❗ 処方上必要とされたベルト類や体幹パッドなどは、必ず正しい手順で装着してください。正しく装着せずに使用すると転落するおそれがあり大変危険です。
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 公園や運動場などの起伏のある傾斜地では使用しないでください。緩やかな下り坂においても、予想外に加速がついて走り出す可能性があり大変危険です。
- ⊘ 2センチ以上の段差や階段がある場所では使用しないでください。転倒や転落のおそれがあり大変危険です。
- ⊘ 歩行器以外の目的で使用しないでください。車いすのように乗せたままで移動しないでください。
- ⊘ 歩道など車道に近い環境では使用しないでください。やむなく使用される際は、介助者などの管理下で周囲の状況に十分に注意してください。
- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりするような移動（走行）はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、ティルトの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。  
〔ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります〕  
〔大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。〕
- ⊘ 上腕支持部やサドル、後輪周辺のフレームなどに立たせないでください。
- ⊘ 本人が乗ったままで本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむなどのおそれがあり、大変危険です。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ⊘ 自動車の中では使用しないでください。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。

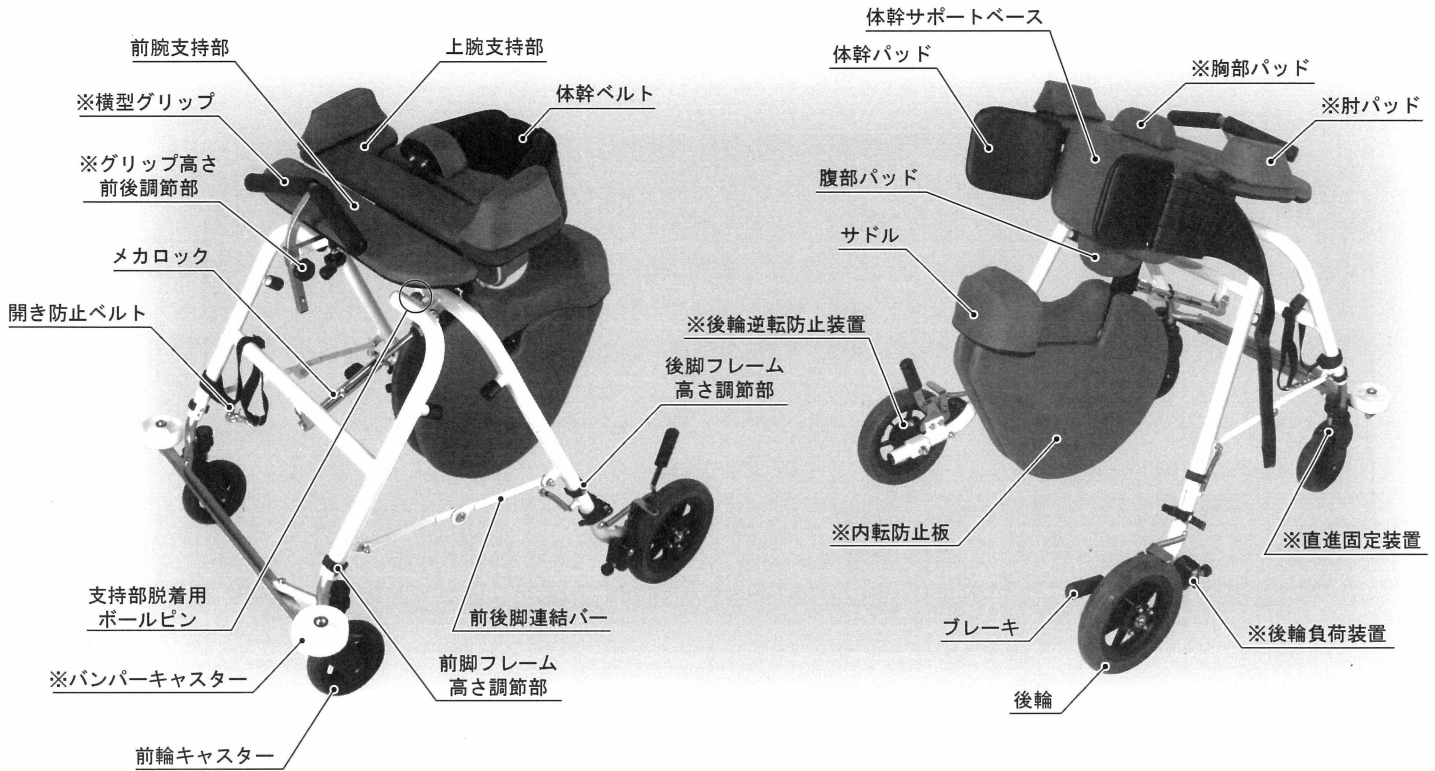
## ● 注意 ( 使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が ) 発生する可能性が想定される事項です。

- ❗ 医師の処方で製作された場合
  - ⊗ 本人以外での使用はしないでください。  
(個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出ししたりしないでください。)
  - ⊗ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドアなどの付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、また角度可変の設定のときは各部が連動して動きます。指などははさまないように注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。(開き防止ベルト、および持ち運びについては9~10ページを参照してください。)
- ❗ 本人が座った状態での角度設定の変更は、体重がかかり急に傾くことがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⊗ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階で使用しないでください。
- ⊗ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊗ 二人乗りなど多人数で使用しないでください。
- ⊗ むやみに荷物など重い物を引っ掛けないでください。状況によっては転倒することがあります。
- ⊗ 子供が天板などにぶらさがらないようにしてください。ぶらさがったりするとバランスをくずして、急に転倒する可能性があります。あり大変危険です。
- ⊗ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊗ 保護者・介助者などが寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊗ 支持部やベルトを取り外した状態では使用しないでください。
- ⊗ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ 支持部のティルト角など、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ⊗ 長時間乗せたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ⊗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、キャスターやタイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⊗ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくとう部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロックなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⊗ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊗ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

## 各部名称

注) 製品の説明上、全てのオプションを装備した状態です。  
 ※印の付いた箇所はオプション部品です。ご注意ください。



## 製品構成

フレーム本体
体幹支持部
体幹サポートベース
腹部パッド
上腕支持部
前腕支持部
サドル
体幹ベルト
開き防止ベルト

## オプション

肘パッド
内転防止板
胸部パッド
横型グリップ(ストレート・スワロー)×(標準・ロング)
バンパーキャスター
後輪負荷装置
後輪逆転防止装置
直進固定装置

## 使用前点検

- ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- キャスターや後輪にガタつきやひずみがないこと、車輪周辺の制御機構(オプション装着時)が正常に機能することを確認してください。
- ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- 折りたたんだ状態から開いたときには、(どこかに引っかかるなどして)不完全な状態ではないこと、正しく開いていることを確認してください。またティルト機構など各部の機構がスムーズに作動することを確認してください。



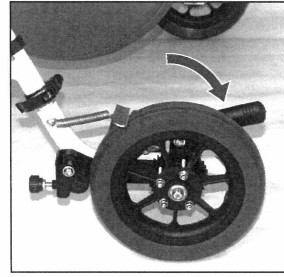
## 各部の取り扱い

### ●ブレーキ

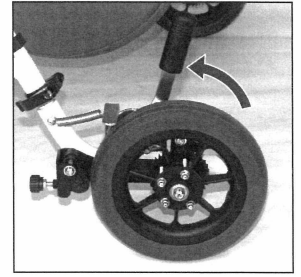
停車するとき、乗り降りるときに使用してください。ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。



- ・乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- ・坂道や傾斜のある場所では、駐車しないでください。
- ・ブレーキの効きが弱く感じられる場合は、停車中に動き出すことも考えられ危険です。すみやかに取り扱い業者にご相談ください。



ブレーキがかかった状態



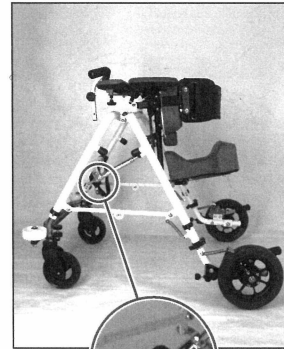
ブレーキを解除した状態

### ●ティルトについて

天板(前腕支持部と上腕支持部)から体幹支持部とサドルまでが一体となって角度可変します。メカロック本体にある黒いノブ(つまみ)を操作すると、ロックが解除され、ノブを離れたらロックが効いて任意のティルト角に設定できます。



- ・ティルト角を調節するときは、必ず2人でおこなってください。1人が本人の体重を支えて、もう1人がメカロックを操作してください。1人で操作すると、乗っている方の重さで急に支持部が下がることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるようにして、ティルト操作をしてください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。



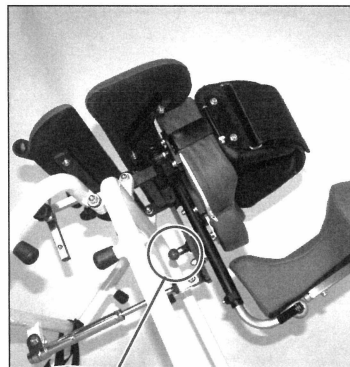
メカロックのノブ



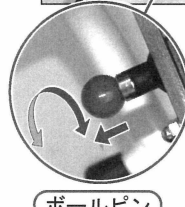
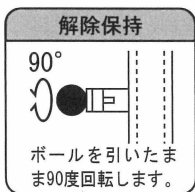
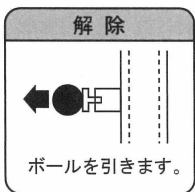
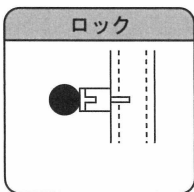
### ●支持部の脱着方法

プロスターを折りたたむ際には、基本的に支持部を取りはずしてください。メカロックの支点(支持部側)上方にある赤色のボールピンを操作すると、ロックを解除することができます。解除したままで支持部全体を両手でしっかり持ち、上方へ引き抜くと外れます。

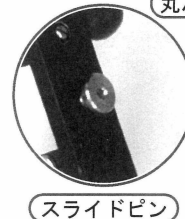
取り付ける際は、逆の手順でおこないますが、支持部を上方より落とし込むようにして、2列の角パイプが受け部の丸パイプへ、加えて腹部パッド裏側にある二股の金具がスライドピンに正しく入っていることを確認しながらセットしてください。セットした後は、ボールピンが確実にロックされていることを必ず確認してください。



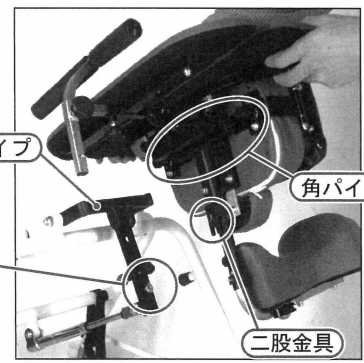
引き抜く



ボールピン



スライドピン



丸パイプ

角パイプ

二股金具

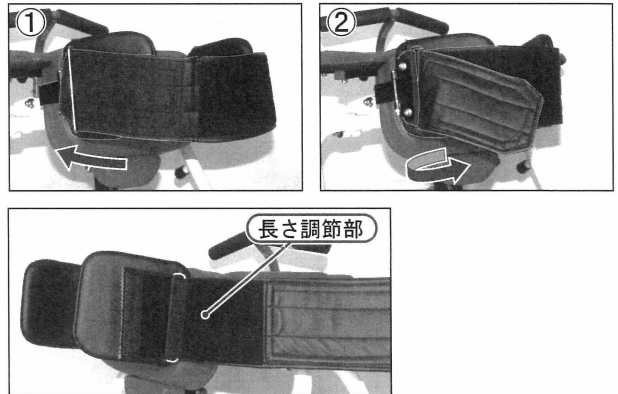


- ・脱着の操作はブレーキをかけておこなってください。
- ・支持部を脱着する際は、手バサミに注意してください。
- ・周辺に小さなお子様がいないことを確認してください。指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意してください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。
- ・使用前には、正しく取り付けられていて外れないことを必ず確認してください。取り付け方を誤ると使用中に外れてしまうことも考えられ危険です。
- ・取り外した支持部を一時的に置くときや自動車に積む際は、倒れたり、転がったりしないように注意して置いてください。

## 各部の取り扱い

### ●体幹ベルトについて

体幹パッドのサポート力を保つため(姿勢の安定)、また使用中の安全を確保するために必ず装着してください。装着する際は、まず、身体が隙間無く奥までしっかり入っていることを確認してから、①体幹ベルトを反対側のベルトカンに通し、②折り返してマジック面をしっかりと貼り付けてください。この折り返し部分で締め加減の微調整がおこなえます。成長などで体格の変化が見られたときは、パッド側のベルト取り付け部分の方で長さ調節することもできます。



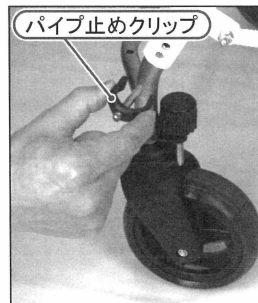
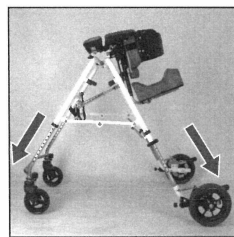
- マジック面が重なる範囲がせまい状態、または軽く貼り付けた程度では、体幹ベルトが急に外れてしまうおそれがあり大変危険です。マジック面のカタ面の範囲(8~9割程度)が重なるように、しっかり圧着してください。
- また、ベルト本体の劣化やマジック面の接着力が弱くなってきたら、すみやかに交換修理してください。修理の際は医療機関、または取り扱い業者へご相談ください。

### ●全体高さ調節の調節方法

前後脚の長さ設定により、全体の高さ調節がおこなえます。前脚は、ベースフレームの前方先端にあるパイプ止めクリップで長さを設定しています。

前脚の調節穴とベースフレームのニケ所の穴位置により10ミリ刻みで長さ調節がおこなえます。

後脚は、先端にあるクイックレバーとパイプ止めクリップで長さを設定しています。前脚同様に後脚の調節穴とベースフレームのニケ所の穴位置により10ミリ刻みで長さ調節がおこなえます。クイックレバーを緩め、パイプ止めクリップを外して適切な長さに調節したら、パイプ止めクリップを挿入して、後輪の垂直を確認しながらクイックレバーを締め込んでロックしてください。



- 前脚は左右が繋がっています。長さ調節をおこなうときは、左右交互に少しずつ動かしながら出し入れしてください。
- 後脚は左右が分離しています。そのため、長さ調節時には後輪の垂直を確かめながら、クイックレバーのレバーを締め込んで確実にロックしてください。(レバーを回転して固定する方式ではありません。)

### ●サドル高さ調節、角度調節について

使用者の股下の高さ、骨盤の角度によって、サドルの高さと角度が調節できます。高さは、サドルの支柱にあるパイプ止めクリップで高さを設定しています。支柱中パイプの調節穴と支柱外パイプのニケ所の穴位置により、10ミリ刻みで高さ調節がおこなえます。サドルは骨盤の水平方向への動きを考慮して、少し左右に回旋する振れ幅を設けています。その振れ具合を止めたいときは、支柱外パイプのキャップスクリューを六角レンチで締めこんでください。角度調節は、サドル下にあるダイヤルロックでおこないます。ダイヤルロックのクイックレバーを解除するとサドルはフリーになります。任意の角度に設定したらクイックレバーを締め込んで固定してください。角度調節は7.5度ピッチで設定できます。



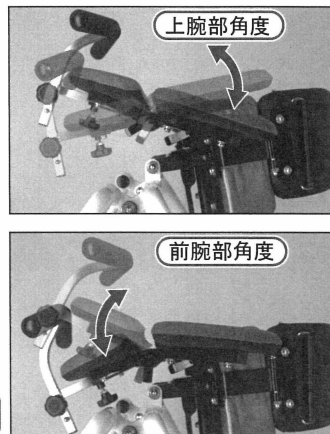
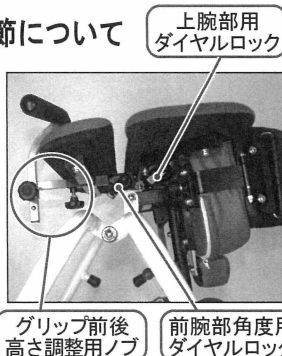
- サドルの高さや角度調節は、歩行器から降りておこなってください。乗ったままで調節すると、利用者の体重でサドルが急に下がってしまうおそれがあり危険です。
- サドルの高さ、または角度を調節したときは、体幹支持部とサドルの位置関係によって全体の高さも調節することがあります。お医者様やセラピストに確認していただきながら調節してください。

## 各部の取り扱い

### ●前腕・上腕支持部の角度調節とグリップ(オプション)の位置調節について

上肢(手部)のポジショニングに合わせて、グリップの高さと前後、前腕部と上腕部の角度調節がおこなえます。上腕部の角度設定は、肩から肘の角度(高さ)に合わせて、左右のダイヤルロックで調節してください。前腕部の角度設定は、肘から手首までの角度(高さ)に合わせて、中心のダイヤルロックで調節してください。グリップは、前後と高さをノブボルトで調整できます。手首の角度、握りやすさ、または握ったときに力が入れやすい位置に合わせて、調整してください。

(グリップはストレートタイプとスワロータイプがあります。手の前後位置や肘関節の角度によって手首の関節に余裕がある方を選択してください。)



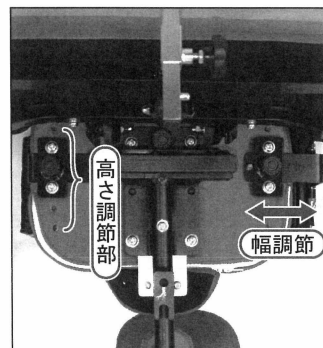
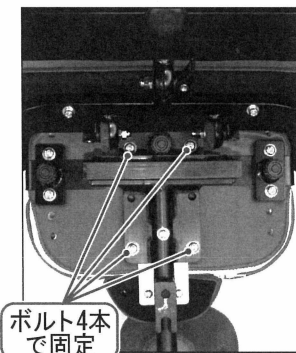
- ・天板の上腕支持部、前腕支持部の角度調節をおこなう際は、必ず片方の手で天板の重さを支えながらダイヤルロックを操作してください。支えていないとダイヤルロックのクイックレバーを解除した瞬間に天板全体が重みで急に下がってきます。手や指をはさまないように注意してください。
- ・グリップは、抜け止め用ピンでストップがかかる範囲内で設定してください。抜け止め用ピンを押し込んで、さらに伸ばした位置に設定すると、予期せず抜けてしまい使用者の顔に当たるなど怪我や破損のおそれがあり危険です。
- ・介助者が誘導するとき、または、わずかな段差などで歩行器全体を引き上げるときには、決してグリップを持たないでください。ストッパーの範囲内でも急な力や動きが加わるとグリップが抜けてしまうことも考えられます。段差を越えるなどの際には、ベースフレームの前方左右を持って引き上げてください。

### ●体幹サポートベースについて

使用者の体格に合わせて、体幹サポートベースの高さと、また体幹パッドの高さと幅調節がおこなえます。胸郭を支持すべき範囲や高さを目安に体幹サポート単体での高さ、または全体の高さ調節で設定してください。体幹サポートベースは、4本のナベボルトで取り付けられています。そのボルトの差し換えで、高さ(穴位置)の変更がおこなえます。体幹パッドは、幅と高さを調節することができます。体幹パッド金具のスライド部分にあるノブボルトをゆるめて、胸郭の幅に調節してください。幅を合わせたらノブボルトをしっかり締めてください。高さ調節は、スライド部分の上下2本のボルトで取り付け穴の高さによって変更することができます。

・体幹サポートベースの高さ調節

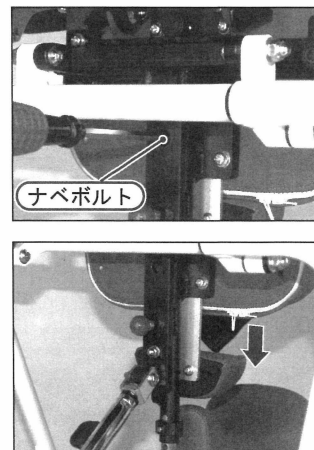
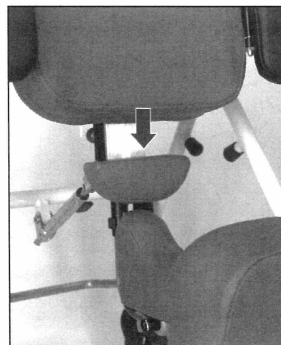
・体幹パッドの高さ、幅の調節



- ・脇の下に近く、できるだけ高い位置で設定する場合は、腋窩(脇)を圧迫しないように20~30ミリほどの隙間が空くようにしてください。
- ・体幹サポートの高さ、または体幹パッドを調節したときは、取り付けネジや調節用ネジが確実に締まっていることを確認してください。
- ・体幹サポートの高さ、または体幹パッドを調節したときは、同時に体幹ベルトの長さも確認してください。体幹ベルトだけ短い状態、または長さがあまった状態になることも考えられます。姿勢の安定のため、また安全にお使いいただくために、必ずベルトの調節をお願いします。

### ●腹部パッドについて

体幹サポートベースの下部に取り付けてある腹部パッドは、体格に合わせて、または成長変化により体幹サポートベースとサドルとの距離がはなれたときに、腹部パッドの高さを下げていく調節がおこなえます。腹部(下腹部)を支持するような高さで設定してください。体幹サポートベースの裏、サドルの支柱にあるM5のナベボルトの抜き差しによって(15ミリピッチ4段階で)腹部パッドの高さ調節がおこなえます。※調節する際は、体幹サポートベースを取り付けているボルト(4ヶ所)も少し緩めたほうがスムーズに調節できます。調節後は、ボルトをしっかり締め直してください。



- ・高さ調節をおこなったら、各部のボルトを確実に締めこんでください。

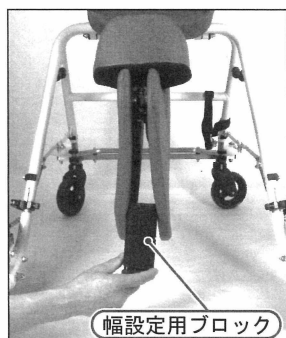
## 各部の取り扱い

### ●内転防止板（オプション）

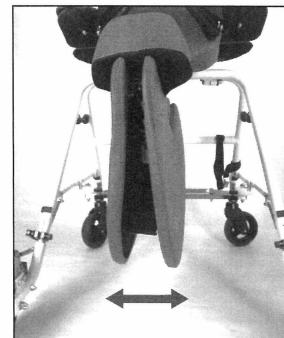
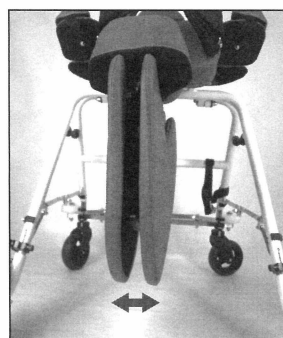
股関節の内転を一定の間隔で保持します。内転防止板の内側にある幅設定用ブロックの向きにより、二種類の幅設定がおこなえます。幅設定用ブロックは、内転防止板の内側のマジック面に貼り付けて使用してください。



内転防止パッド



幅設定用ブロック



・内転防止板の幅設定は、股関節の状態を十分考慮しなければならないため、必ずお医者様やセラピストに確認をとりながら設定してください。

### ●胸部パッド（オプション）

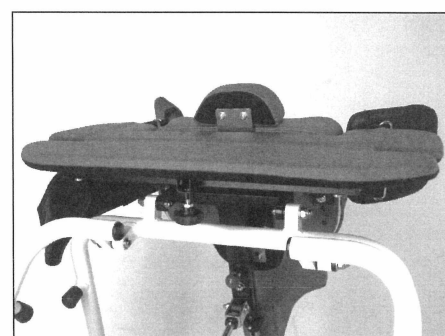
体幹サポートベースの上面に取り付けて、胸骨周辺をサポートするパッドです。



・体幹サポートベースの高さ変更をおこなった際は、胸部パッドのナベボルトを確実に締め込んでください。



胸部パッド

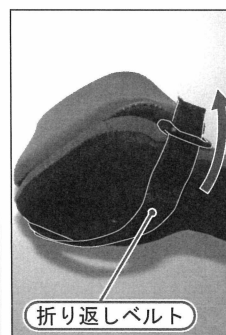


### ●肘パッド（オプション）

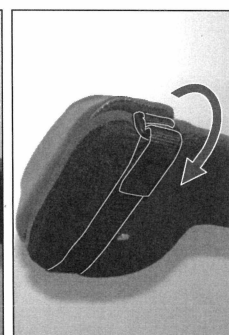
肘の位置を安定させるためのパッドです。取り付けは、上面のマジック（面ファスナー）で貼り付け、折り返しベルトで固定します。



肘パッド



折り返しベルト

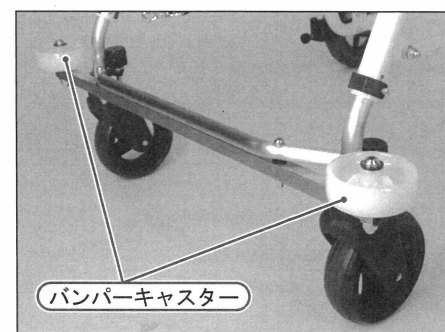


### ●バンパーキャスター（オプション）

主に室内での使用において、壁や柱などにぶつかった際に斜め前方にあるキャスターが回転して方向を整えます。



・環境によっては、バンパーキャスターが機能しにくい場合（突出した柱や手すりなどの障害物が多い環境）も考えられます。また、進む方向が左右に蛇行する、もしくは、いずれかに偏りやすいときは、介助者が付き添いながら方向修正の補助をしていただいた方が良いでしょう。



バンパーキャスター



## 各部の取り扱い

### ●直進固定装置（オプション）

キャストの旋回（首振り）を固定するための装置です。キャストの後方にある固定解除ノブをゆるめ、シャフト用ノブを締め込んでシャフトをキャストの受け部にしっかりセット（挿入）してください。

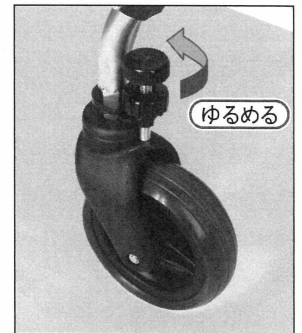
セットしたら、シャフトが緩まないように固定解除ノブを締め込んでください。解除したときも同様に、歩行中に固定用シャフトが緩んでキャストに干渉しないよう固定解除ノブを締め込んでください。



- ・必ず左右同時に設定してください。片側だけセットすると、前進した瞬間に急旋回してしまう可能性があります。危険です。
- ・キャスト受け部への固定シャフトの挿入（かかり）が浅いと、直進固定が上手く機能しないことも考えられます。シャフトが受け部に十分にかかるようセットしてください。



・直進固定状態でキャストの首振りが止まります。



・直進固定解除の状態でキャストは自在に旋回します。

### ●後輪逆転防止装置（オプション）

歩行器がバックしないように後輪の逆回転を止める装置です。歩行器がバックしてしまうと、股関節が屈曲、骨盤が後傾してしまうなどして歩行しにくい場合に使用します。逆回転防止の設定をする場合は、トリガープレートを進行方向に回転させ、歯車にセットしてください。セット後は、その場での旋回が難しくなります。また、逆回転防止の設定を解除するときは、トリガープレートを後方に回転させてください。解除時にも、トリガープレートが歯車にあたって装置から「カタカタ」という音がしますが、異常ではありません。



- ・使用前に後輪逆転防止が正しく機能していることを必ず確認してください。機能が不十分でしっかり作動しない場合、傾斜のある場所などでは、気付かずにバックするなどして危険な場面も考えられます。
- ・必ず、左右同時にセットしてください。片側だけセットすると、バックした瞬間に急旋回してしまう可能性があります。危険です。



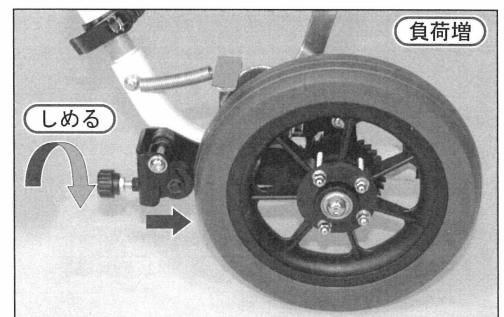
### ●後輪負荷装置（オプション）

歩行するスピードが速くなり過ぎるなどの危険な状況を回避するため、または、本来の動作、目的が果たせなくなってしまう（「歩く」というより「蹴って移動してしまう」ような状況）ときに使用します。後輪（左右）の前方のノブボルトを右回りに締め込むと、後輪に負荷が加わり回転が重くなります。

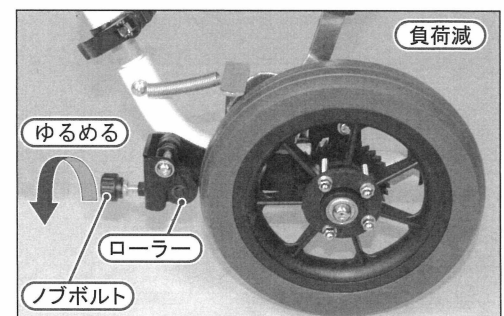
（負荷装置のローラーが後輪のタイヤ部分に接触して負荷が加わる仕組みです。）  
環境や付き添いの様子によって負荷を変更するときは、再度ノブボルトを調整してください。締め込み加減によって負荷の重さ、軽さを調整することができます。



- ・基本的には、左右の負荷を同程度に設定してください。左右の負荷に違いがあると歩行に影響してしまいます。
- ・負荷の程度（設定）は、お医者様やセラピストに確認をとりながら調整してください。



・締め込むと負荷が増し、後輪の回転が重くなります。



・左回りにゆるめると負荷が減ります。

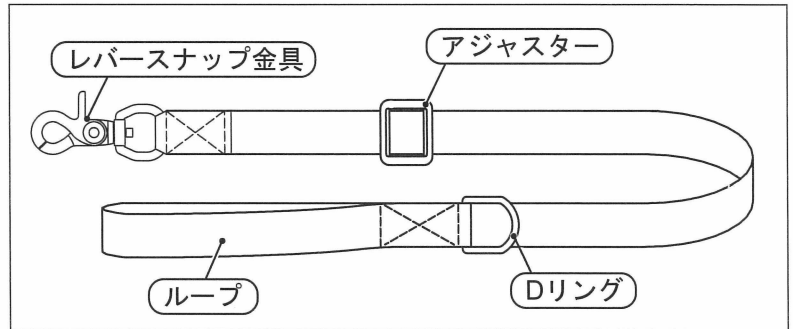


## 開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはプロスターを折りたたんだときに、ベースフレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

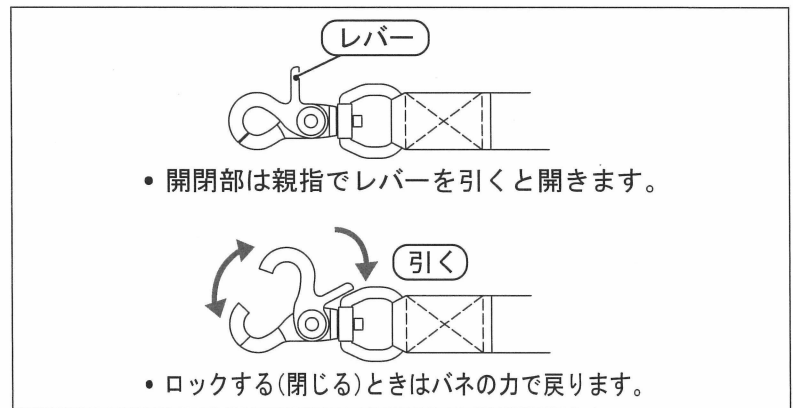
### ●開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。



### ●レバースナップ金具の取り扱い

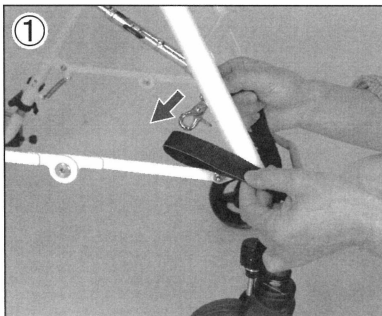
- レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



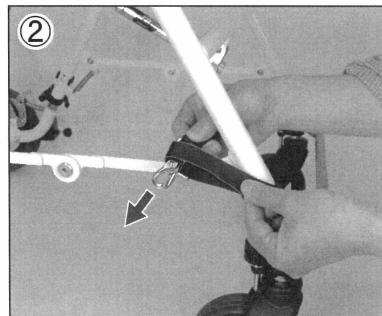
- レバースナップ金具の開閉部で指などはさまないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

## プロスター本体への取り付け方法と使用方法

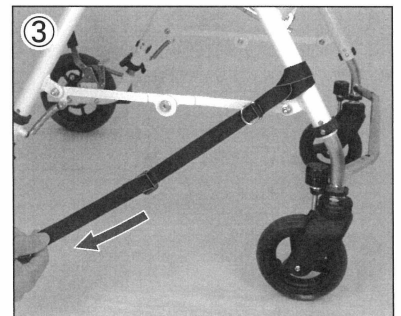
開き防止ベルトは、前脚フレームの左右どちらかに取り付けます。(出荷時は前脚フレームの右側に取り付けています。)



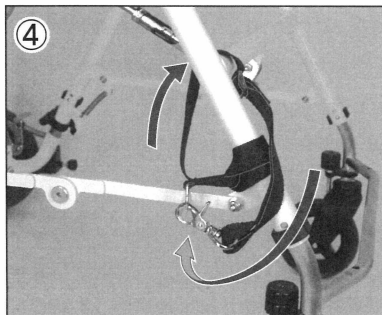
① 開き防止ベルトのループを前脚フレーム外側から、前後脚連結バーの上側にあててください。



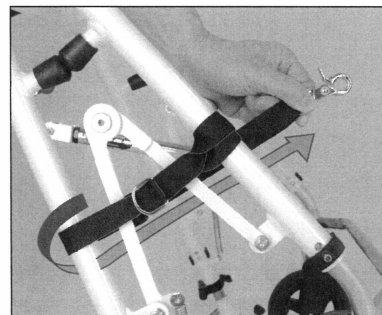
② ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。ベルトがねじれないように注意して通してください。



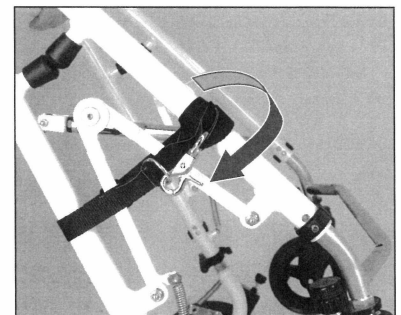
③ ループのところに余分な余りやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。



④ 通常使用では(折りたたみ時以外)ではベルトがぶらついたり、からまないように、前脚の内側から巻いて、Dリングにレバースナップ金具をかけてください。



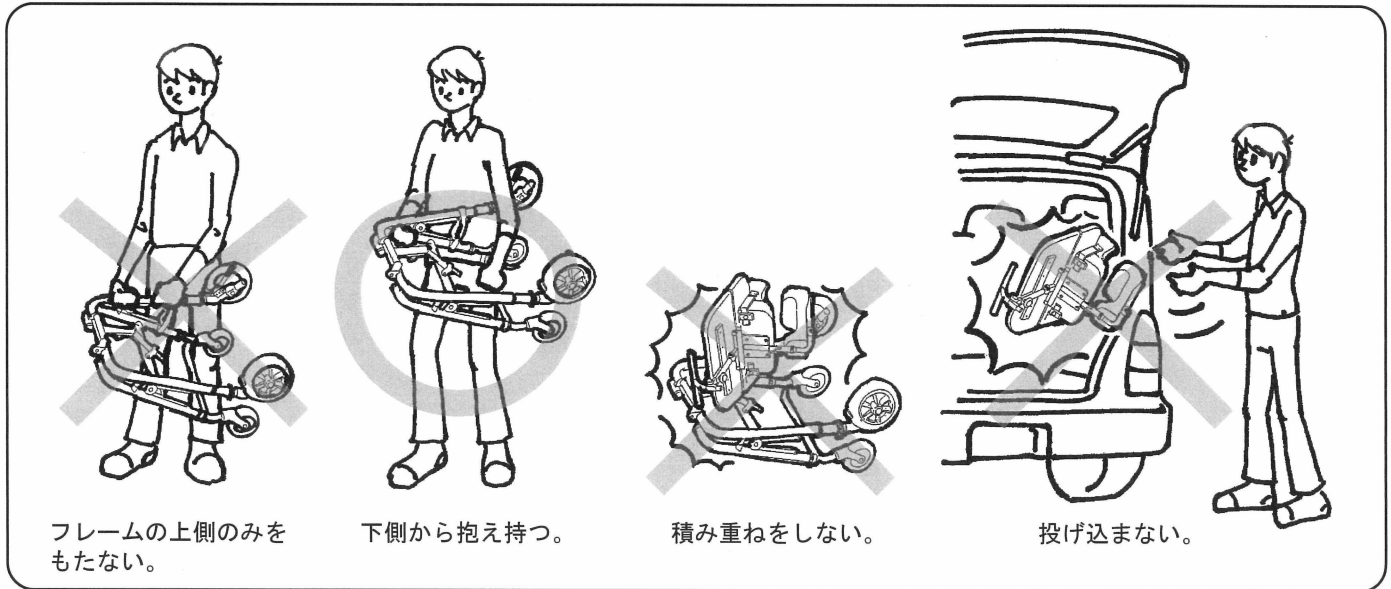
- 折りたたんだ際は、後脚フレームの外側から巻くようにして内側へ折り返してください。



- さらに前脚を巻くようにしてレバースナップ金具をDリングにかけてください。

## 車への積み降ろし、抱え上げるときの注意

自動車のトランク(荷室)に積み下ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。



フレームの上側のみをもたない。

下側から抱え持つ。

積み重ねをしない。

投げ込まない。



・積み下ろしの際は、投げ込んだりして大きな衝撃を与えないように注意してお取り扱いください。折りたたみや脱着機構また各部の調節機構が動かなくなり、故障するおそれがあります。

## 歩行器の取り扱い

### ●乗り降りの際に

乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。介助で移乗する場合でもブレーキをかけてください。



- ・坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ・ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です。すみやかに取り扱い業者にご相談ください。

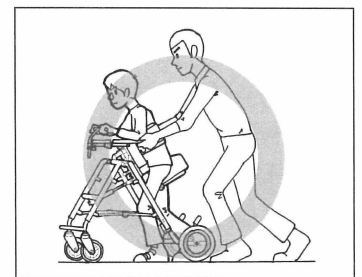
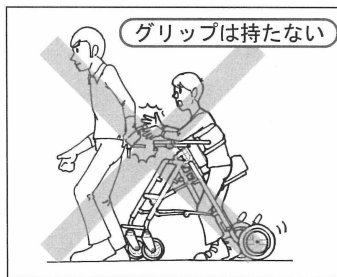


### ●付き添って誘導するとき、または路面の抵抗が大きく進みにくいとき

歩行器の斜め前方や側方、後方などから上肢支持部に手を添えるなどして方向を誘導してください。また、グリップを持って誘導すると、予期せずグリップが外れてしまうなどして事故になるおそれがあり危険です。20ミリ程度の段差を乗り越える際も、グリップは持たずにベースフレームの前脚周辺を持って引き上げるようにしてください。



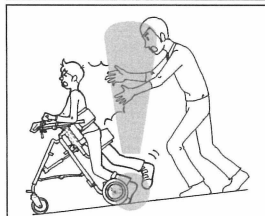
上肢支持部は真上から押さないように(重さをかけないように)注意してください。



### ●緩やかな傾斜やスロープなどのある場所では必ず介助者が付き添ってください

傾斜に対して真っ直ぐに向かってください。斜めに走ると、前方転倒や側方転倒のおそれがあり危険です。

屋内から屋外に出入りするスロープなど傾斜路を走行する場合は、必ず介助者が付き添ってください。屋外では必ず歩道を走行してください。



### ●屋内・屋外において

周囲の物や手すりなどにぶつからないように注意して走行してください。また、壁と歩行器の間で手や指をはさまないように注意してください。



- ・大きな段差や近くに側溝や階段などがある場所では使用しないでください。
- ・ぬかるみや砂浜など悪路走行はしないでください。踏切など線路周辺では使用しないでください。車道や車道に近い場所では使用しないでください。
- ・エスカレーターやエレベータ付近を走行しないでください。

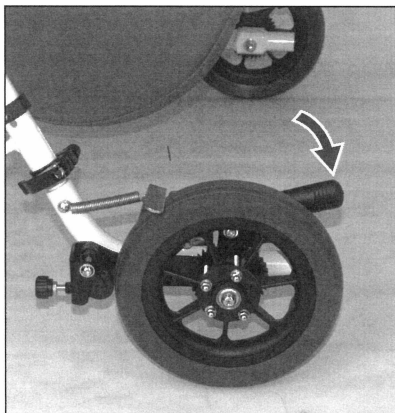
## 歩行器の取り扱い

### 折りたたみ方



- ・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

①

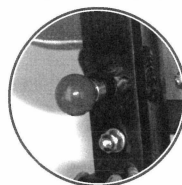


ブレーキをかけてください。

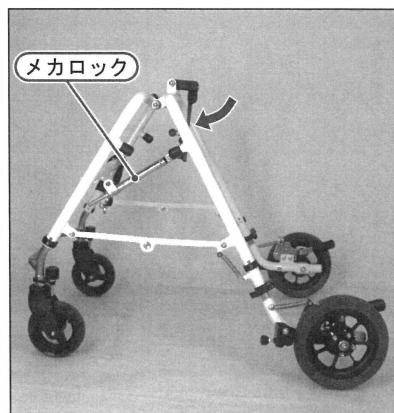
②



支持部を取り外してください。  
メカロックの上方にある赤色のボールピンを操作してロックを解除保持にして支持部を上引き抜くようにして取り外します。



③



メカロックを操作して支持部ベースを内側に入れて折りたたみやすい設定にします。



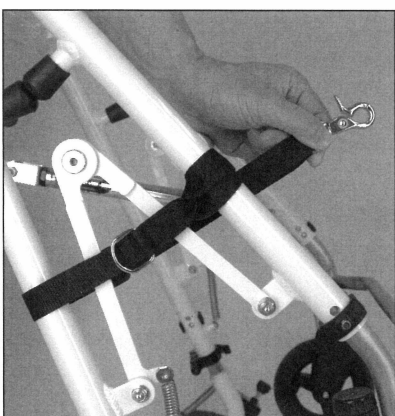
手ばさみ注意!

### 開き方



- ・脱着の操作については4ページを参照してください。

①

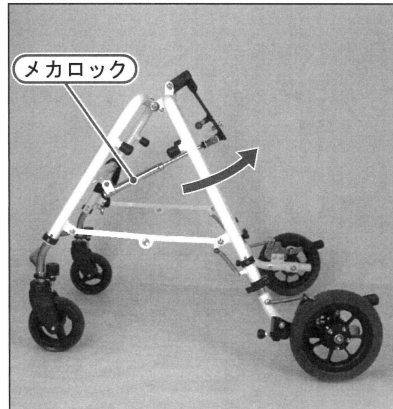


開き防止ベルトを外して、ベースフレームを開きます。



- ・外した開き防止ベルトがむやみに引っかからないようDカン金具にレバースナップ金具を固定してください。

②



メカロックを操作して、支持部ベースの角度設定をひとまず支持部を装着しやすい角度にします。



手ばさみ注意!

③



支持部を装着します。支持部ベースの上方より角度を沿わせてスライドさせるようにして2ヶ所の受け部をしっかりとめてください。

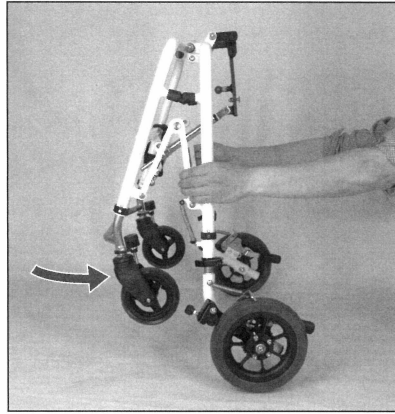


- ・脱着の操作については4ページを参照してください。



- ・持ち運びをする際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。
- ・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。

4

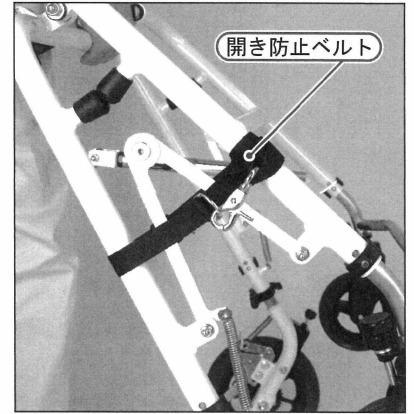


前後脚連結バー(左右)を操作してベースフレームを折りたたみます。



手ばさみ注意!

5



ベースフレームをたたんだら、開き防止ベルトを装着してください。



- ・開き防止ベルトの取り扱いについては9ページを参照してください。

ボールピン



2ヶ所のかみあわせを確認したら、赤いボールピンを操作してロックしてください。

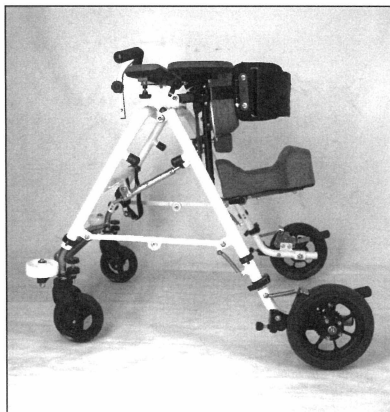


・ボールピンのロック確認



手ばさみ注意!

4

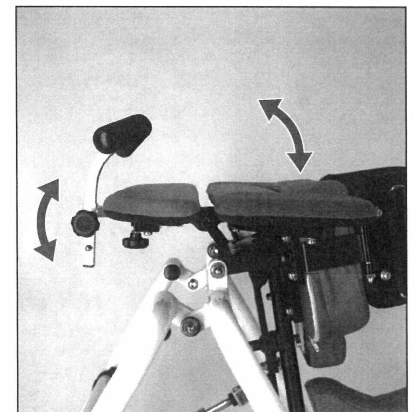


ティルト角を適切な角度に設定してください。



手ばさみ注意!

5



積み込みなどで前腕・上腕支持部の角度やサドルの角度設定を変更していれば、各部を適切な設定にしてください。

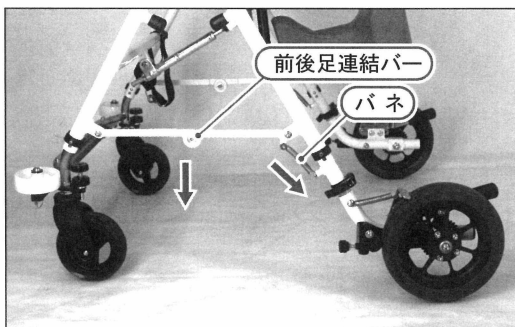


## お手入れ・メンテナンス

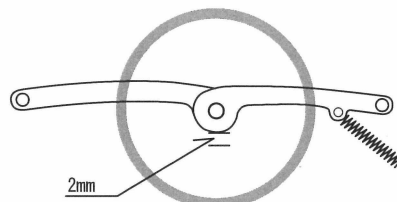
- ・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。  
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。  
特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- ・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。  
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- ・シートは、固絞りした雑巾で拭き掃除してください。
- ・調整や修理などは、製作された医療機関、または取り扱い業者にご相談ください。
- ・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

## 前後足連結バー引っぱりバネについて

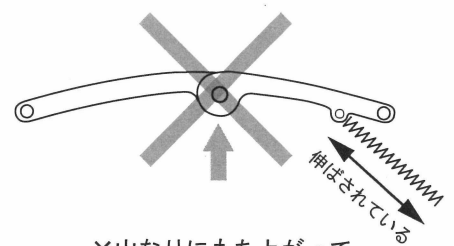
- ・本製品は、使用(走行)中に、下フレーム(前・後足フレーム)が折りたたまないように、前後足連結バーをバネで引く構造になっています。
- ・このバネは、安全のために非常に重要な部品であるため、簡単に外れてしまわないよう十分に注意して組み立てております。しかし、使用期間中に何か突起物などに引っかけてしまったことにより、バネが伸びきってしまったり、はずれてしまったり、または折れたりすることも考えられます。このような状態になったときは、不用意に折りたたんでしまう可能性があるため、直ちに使用をとりやめてください。
- ・使用前には、バネの状態(伸び過ぎや破損)とバネが外れていないことを確認してください。バネの破損などに気付いたときは、すぐに取り扱い業者にご連絡ください。



前後足連結バーの状態



○下がりきりから2mmほどの遊びがある状態



×山なりにもち上がっている状態

以下の5点について、点検してください。

□前後足の連結バーの中心が、ちゃんと下がっているか？

（前後足連結バーがしっかりとつばた状態になっていることを必ず確認してください。  
《前足、後足フレームを前後から押して連結バーの中心部が下がること。》

中心部が上に持ち上がっていると、前後足フレームが折りたたんでしまうため大変危険です。）

□バネは、きちんとしていているか？

□バネの取り付け部分が伸びて、はずれそうになっていないか？

□バネが部分的に伸びきっていないか？

□前後足連結バーを指で持ち上げたとき、バネが下方方向にしっかり引っぱっているか？

❗ 前後足連結バーを持ち上げるときは、中心より外側の部分を扱ってください。中心付近は指をはさむおそれがあります。

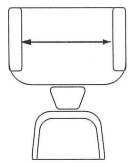


# 仕様

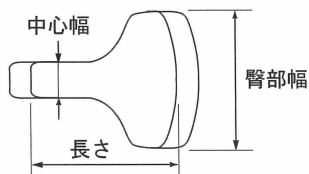
	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	
天板高さ(A)	mm	530~640	660~840	785~985	
体幹サポート~サドル上面(C)	mm	240~345	280~430	310~460	
サドル高さ(股下)(B)	mm	280(~80下げ調節)	380(~100下げ調節)	470(~100下げ調節)	
体幹サポートベース(横幅×高さ)	mm	240×140	260×170	300×200	
体幹패드サイズ(長さ×高さ)	mm	135~120	155~140	190~165	
体幹패드調整幅	mm	180~240	200~260	240~300	
サドルサイズ(長さ×中心幅/臀部幅)	mm	125×50/130	135×55/145	145×65/165	
天板(上腕支持部 長さ×幅)	mm	約140×約490	約140×約510	約160×約555	
天板(前腕支持部 長さ×幅)	mm	約95×約480	約95×約500	約95×約540	
グリップ調節幅(前後×上下)※オプション	mm	前後39mmストローク×上下32mmストローク			
車体寸法(W×D×H)※1	mm	610×655×540	690×770×670	780×910×800	
折りたたみ寸法	・ベースフレーム	mm	610×600×370	690×750×430	780×920×540
	・支持部	mm	500×560×320	520×580×350	560×640×400
基本重量 ※2	・ベースフレームのみ	kg	6.5	7.5	8.5
	・上物支持部のみ	kg	3.5	4.5	5
ティルト角度範囲	度	0~45	0~43.5	0~49	
上腕支持部角度範囲		各部の角度可変機構の角度範囲については、ダイヤルロックの角度範囲が十分にあるため、支持部やフレームがぶつからない範囲内で設定してください。			
前腕支持部角度範囲					
サドル角度範囲					
シートユニット	素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表皮材：ポリウレタン系繊維100%・裏ポリエステル系繊維100%</li> <li>・面ファスナー：ナイロン系繊維93%・ポリウレタン系繊維7%</li> </ul>			
対象身長を目安	cm	90~110	100~130	120~140	

※1 前後脚を調節していない最小値です。

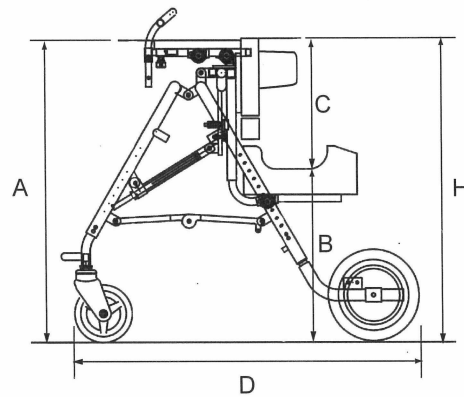
※2 基本重量=基本のシートユニットを取り付けた場合の重量



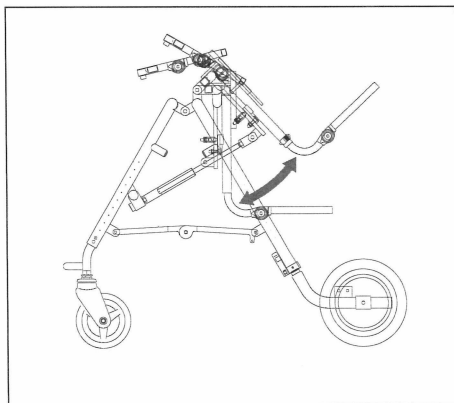
体幹패드調整幅



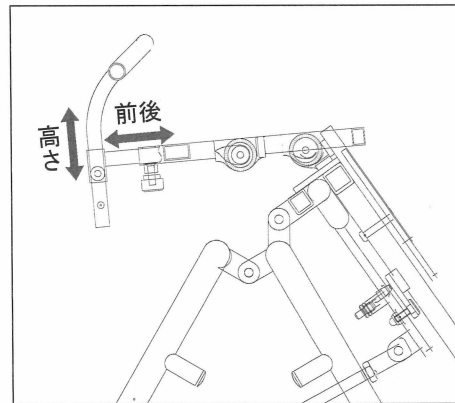
サドル寸法



## 角度可変の範囲



ティルト角度



グリップ調節部(前後×高さ)  
※オプション

取り扱い業者・連絡先

2017. 5. 23